

メールマガジン「ガゼッタ」まとめ(25)

第 121 号～第 125 号 (2015 年 12 月 25 日～2016 年 2 月 5 日配信)

配信した「ガゼッタ」No.121-125 のまとめです。書式と一部表記を変更して図版を取り込み、pdf にしました。



ガゼッタ第 121 号をお届けします。

本号は、「会費受領&クリスマスカードの発送と日本ロッシェニ協会 2015 年度の活動まとめ」、「パルマのレージョ劇場《なりゆき泥棒》に横前奈緒さん出演!」、「お薦め新刊:長木誠司『オペラの 20 世紀 夢のまた夢へ』(平凡社)」、「日比谷オペラ塾「深読み名作オペラ」第 3 回:ロッシェニ「チェネレントラ」満員御礼受付終了」、「来年は《セビーリヤの理髪師》初演 200 周年!」をお届けします。

なお、協会ホームページの[ロッシェニ自筆書簡の頁](#)に「日本におけるロッシェニ自筆資料の所蔵」を新規掲載し、[ロッシェニ作品解説](#)に掲載済みの《湖の女》作品解説を増補改訂版 PDF と差し換えました(12月20日アップ)。

次回例会、2016 年 1 月 17 日(日)のご案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

▼会費受領&クリスマスカードの発送と日本ロッシェニ協会 2015 年度の活動まとめ▼

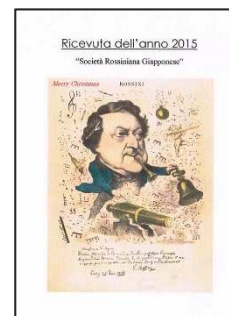
日本ロッシェニ協会の会費をお支払いいただきました会員の皆さまには、2015 年度の会費受領とクリスマスカードを兼ねたカードをお送りしました。特別会員 6 名、一般会員 94 名(12月24日現在)。2015 年度の最終的な集計は、12月31日までの納入済を基にあらためて行います。

現在編集作業を進めている日本ロッシェニ協会紀要『ロッシェニアーナ』第 36 号(2015 年度版)は、1 月中の発行となります(B5 版 160 頁予定。通常の書籍 1 冊分に相当)。これは会費受領カードの届いた会員にのみお送りしますので、会費未納の方は郵便振替での会費納入をお願い致します。

郵便振替番号がご不明な方はこちらをご覧ください↓

<http://societarossiniana.jp/member.pdf>

入会ご希望の方はこちら→ <http://societarossiniana.jp/membership.html>



次に、日本ロッシェニ協会 2015 年度の活動をまとめておきます。

- アルベルト・ゼツダ講演会(朝日新聞文化財団、イタリア文化会館、日本オペラ振興会との共催)
1月17日(土) イタリア文化会館アニュエリホール
- 演奏会「ROSSINI パリの煌きとエスプリの中で」
3月29日(日) 14時開演 JTアートホール、アフィニス(虎ノ門JTホール) 出演:山口佳子(ソプラノ)、富岡明子(メゾソプラノ)、中井亮一(テノール)、金井紀子(ピアノ)、水谷彰良(解説)
- 懇親会実施
2月11日、イタリアン・レストラン「ベファーナ」(下北沢)にて同日の例会後に開催(31名出席)
- 紀要『ロッシェニアーナ』第 35 号(1月20日発行。B5 版、160 頁)
- 例会(6回実施。会場:北沢タウンホール 3F ミーティングルーム)
2月11日(水・祝):ロッシェニ研究の最前線(講演)と《グローリア・ミサ》 講師:水谷彰良
3月8日(日):リヒャルト・シュトラウスのオペラにみるイタリア・オペラ 講師:広瀬大介
4月26日(日):《アンナ・ボレーナ》の解析——ドニゼッティのロッシェニ期からロマン派様式への移行 講師:高橋和恵
7月20日(月・祝):2015 年 ROF 予習会(《幸せな間違い》《泥棒かささぎ》《新聞》の魅力) 講師:水谷彰良
9月26日(土):2015 年夏のロッシェニ祭報告～朝岡聡の「観た! 聴いた! 良かった!」 講師:朝岡聡
11月3日(火・祝):美食家ロッシェニの真実(二つのドキュメンタリー「料理人ロッシェニ」「厨房に入った作曲家」と最新文献にみる美食家ロッシェニの真実) 講師:水谷彰良
- メールマガジン「ガゼッタ」配信(管理人:音喜多晶子、執筆:水谷彰良)
第 86 号(1月5日配信)から第 121 号(12月25日配信)まで、合計 36 号
- 協会ホームページの運営と更新(HP 運営:音喜多晶子、コンテンツ提供:水谷彰良)
2015 年度の更新と新規アップはこちらからご覧ください→ <http://societarossiniana.jp/index.html>
- その他:運営委員会の実施と役員改選(5月13日)、会員への優待案内、チラシ、例会案内の送付(随時)

▼パルマのレージョ劇場《なりゆき泥棒》に横前奈緒さん出演!▼

ガゼッタ第 122 号をお届けします。

新年あけましておめでとうございます。

今年はサティ生誕 150 年、パイジェッロ没後 200 年の記念年ですが、ロッシーニ・ファンにとっては《セビーリャの理髪師》《新聞》《オテッロ》初演 200 年、フローレスの ROF デビューと日本ロッシーニ協会 20 周年のアニヴァーサリーに当たります。

本号は、「昨年 6 月ミラーノのドゥオーモで《モゼ》が上演されていた!」、「アンドレア・バッティストーニ講演会 (1 月 31 日イタリア文化会館)」、「日本オペラ振興会・新人育成オペラアンサンブル公演《チェネレントラ》と《オテッロ》(3 月 12・13 日)」、「2016 年アカデミア・ロッシニアーナ募集要項発表!」をお届けします。

日本ロッシーニ協会 2016 年年賀状はこちら → <https://www.facebook.com/JapanRossini>

2016 年 1 月 17 日 (日) の例会案内はこちら → <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

▼昨年 6 月ミラーノのドゥオーモで《モゼ》が上演されていた!▼

世界の主要なロッシーニ上演をリサーチしているつもりのも、これだけはいづれ先日まで知りませんでした。なんと昨年 (2015 年) 6 月 8、11、15、18 日、ミラーノのドゥオーモ (大聖堂) でロッシーニの《モゼ》が上演されていたのです (《エジプトのモゼ》をフランス語改作した《モイーズとファラオン》のイタリア語版が《モゼ》と称されます)。

昨年 6 月ミラーノのドゥオーモで行われた上演は、5 月開始のミラーノ万博博覧会 (EXPO Milano 2015) の一環に行われましたが、オペラのサイトには掲載されず、7 月にミラーノを訪れた筆者も知りませんでした。これはモゼを 73 歳のルッジェーロ・ライモンディが歌い、大聖堂の内部をプロジェクションマッピングで投影するセミステージ形式で、全曲ではなく、6 割程度に刈り込んだ縮約版のようです。

ミラーノのドゥオーモによるインフォメーションはこちら ↓

<http://www.duomomilano.it/it/event/2015/06/18/il-mose-di-gioachino-rossini/77f9002f-af3d-464e-bee7-933bb870c5c6/>

舞台写真を 18 枚掲載したサイトはこちら → <http://www.ilgiorno.it/milano/duomo-mose-rossini-1.1048536>

事前に知っていたらミラーノまで観に行ったのに、とお嘆きの方も多いでしょう……安心してください。早ければ今月末には上演映像が日本語字幕付きで発売予定です (C Major、海外盤。DVD と BD)。

詳細は、後日あらためて紹介させていただきます。

▼アンドレア・バッティストーニ講演会 (1 月 31 日イタリア文化会館) ▼

2 月の東京二期会オペラ劇場、ヴェルディ《イル・トロヴァトーレ》(2 月 17、18、20、21 日、東京文化会館大ホール) のために来日する新進気鋭の指揮者アンドレア・バッティストーニの講演会が、1 月 31 日 (日) 14:00 よりイタリア文化会館アネッリホールで開催されます。通訳は、日本ロッシーニ協会運営委員でもある井内美香さん。

バッティストーニはヴェルディ指揮者として定評がありますが、ベルカントの伝統に連なる《イル・トロヴァトーレ》を指揮した経験が乏しく、その意味でも要注目です。ちなみに筆者は現在発売中の『モーストリー・クラシック』2 月号「私のお薦めコンサート」欄に、この公演を次の文章でお薦めしておきました。

「筆者の一押しは、東京二期会が上演する《イル・トロヴァトーレ》。指揮者は東京フィル定期の《トゥーランドット》と《第九》特別演奏会に続いて来日するバッティストーニで、評価もうなぎ上り。パルマ王立歌劇場とヴェネツィア・フェニーチェ劇場と提携したマリアーニ演出は抽象化を取り入れ、洗練された色彩と構図で魅せる。唯一の客演歌手で 17 日と 20 日にマンリーコを歌うメキシコ人ヘクトル・サンドバルも知る人ぞ知るヴェルディ・テノールの逸材だから見逃せない。」(115 頁)

◎アンドレア・バッティストーニ講演会

2016 年 1 月 31 日 (日) 14:00 ~ イタリア文化会館アネッリホール

【通訳】井内美香 【司会進行】加藤浩子

日本ヴェルディ協会会員は無料、非会員は ¥1,000

お申し込みは日本ヴェルディ協会。TEL: 03-3320-2500 / FAX: 03-5333-5899、メール: koen150612@verdi.or.jp

詳細はこちらをご覧ください → <http://www.verdi.or.jp/>

▼日本オペラ振興会・新人育成オペラアンサンブル公演《チェネレントラ》と《オテッロ》(3 月 12・13 日)▼

日本オペラ振興会 (藤原歌劇団の母体) のオペラ歌手育成部、第 35 期生新人育成オペラアンサンブル公演としてロッシーニの《チェネレントラ》が 3 月 12 日、《オテッロ》が 3 月 13 日、どちらもピアノ伴奏で上演されます……チラシに上演形態が示されていませんが、関係者からピアノ伴奏と聞いています。

出演者の名前だけで役名の表記が無く、ピアノ伴奏か否か、指揮者はいるのかいないのか、合唱の有無など何ひとつ書かれていない実にひどいチラシで呆れますが (有料の催しでこれはあり得ない!!)、日本オペラ振興会のサ

イトにも同様の告知しかありません。3月13日は日本ロッシーニ協会の例会会場を予約していましたがこれをキャンセルし、筆者は《オテッロ》を観に行きます。

●歌手育成部・第35期生新人育成オペラアンサンブル公演（主催：公益財団法人日本オペラ振興会）

◎ロッシーニ「チェネレントラ」2016年3月12日（土）14：00開演

◎ロッシーニ「オテッロ」2016年3月13日（日）14：00開演

場所：昭和音楽大学北校舎5F

チケット：全席自由 ¥2,000

出演：

《チェネレントラ》：石福敏伸、井上基、奥角由、川戸恵理、田代直子、中村文子、水澤奏美

《オテッロ》：岩崎展央、小平菜摘、田山夢人、藤田沙綾、増田未玲、松田健、矢作有沙



お問合せと申し込み：日本オペラ振興会チケットセンター TEL 044-959-5067（平日 10:00～18:00）

日本オペラ振興会の告知はこちら→ https://jof.or.jp/performance/nrml/1603_training.html

▼2016年アッカデーミア・ロッシニアーナ募集要項発表！▼

毎年7月にペーザロで実施されるアッカデーミア・ロッシニアーナ（ロッシーニ・アカデミー）の募集要項が発表されました。ここ数年40カ国250人以上の応募があり、狭き門ですが、バルカント歌手を志す歌手の卵はチャレンジして損はありません。今年88歳になられたアルベルト・ゼッダ先生は昨年ROFの芸術監督を退任しましたが、アッカデーミア・ロッシニアーナの監督は続けます。女性は32歳未満、男性は35歳未満まで応募できますが、書類審査でかなり落とされる模様です。

アッカデーミア・ロッシニアーナ応募要項はこちら→ <http://www.rossinioperafestival.it/?IDC=189>

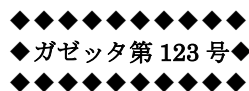
PDF版はこちら↓

[http://www.rossinioperafestival.it/intra/upload/contenuti/file/\[ita\]2016BandoAccIT_AF.pdf](http://www.rossinioperafestival.it/intra/upload/contenuti/file/[ita]2016BandoAccIT_AF.pdf)

本日はこれにて失礼いたします。

日本ロッシーニ協会とメールマガジン「ガゼッタ」、今年も宜しくお付き合いください。

（2016年1月5日 水谷彰良）



ガゼッタ第123号をお届けします。

1月2日、アルベルト・ゼッダ先生が88歳になられました。おめでとうございます。日本なら「米寿」のお祝いですね。

本号は、「フローレスのアルバム《イタリア》」、「お薦め新譜：ピエトロ・ジェネラーリ《アデリーナ》」、「郵船トラベルがロッシーニ音楽祭の関連サイトを開設！」をお届けします。

今年の例会は7回実施予定。1月17日（講師：水谷彰良）を皮切りに、2月28日（講師：井内美香）、4月10日（講師：高橋和恵）……と続きますので、ご期待ください。

1月17日（日）の例会案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

▼フローレスのアルバム《イタリア》▼

◎ファン・ディエゴ・フローレス／イタリア Juan Diego Florez - Italia

（デ・クルティス〈帰れソレントへ〉、ラシエル〈ローマよ、さようなら〉、ドニゼッティ〈船乗りの恋〉、ピクシオ〈愛のカンツォーネ〉、ロッシーニ〈ボレロ〉、トスティ〈マレキアーレ〉、レオンカヴァッロ〈マッティナータ〉ほか。全17曲）

ファン・ディエゴ・フローレス(T) カルロ・テナン指揮フィラルモニカ・ジョアキーノ・ロッシーニ

録音：2014年9月ファーノ Decca 4788408 (CD 海外盤)

「イタリア」と題されたフローレスの新録音が発売されたのは昨年9月末。3か月半過ぎましたが、なぜか注目されず、筆者も「オペラじゃないからいいか」と思ってメルマガで紹介し忘れてしまいました。でも今年ROFデビュー20周年を迎えるフローレスの最新アルバムとあれば、スルーするわけにはいきません。

2014年9月ファーノで録音されたこのアルバムは、ドニゼッティの1曲とロッシーニの2曲を除いて近代イタリア歌曲とカンツォーネの名曲が収められています（全17曲）。偉大なテノールなら誰もが録音する曲ばかりです

が、そこはフローレス。ベルカント・テノールならではの歌の味わいがあり、フレージングの巧さも際立ちます。

編曲も他のカンツォーネ集と異なり、マンドリン（アヴィ・アヴィタル）、アコーディオン（クセーニャ・シドロワ）、ギター（クレイグ・オグデン）が伴奏に独自の色彩を付与します。最後の〈オー・ソーレ・ミーオ〉もなかなか素敵。ちなみにペルーとラテンアメリカのポピュラー音楽のアルバム「センチメント・ラティーノ（Sentimiento Latino）」（2006年発売）は、8万枚売り上げたそうです。

一昔前のLPを思わせる写真ジャケットは mismatch ですが、一聴の価値あり。



▼お薦め新譜：ピエートロ・ジェネラーリ《アデリーナ》▼

◎ピエートロ・ジェネラーリ：歌劇《アデリーナ》Pietro Generali: Adelina

ジョヴァンニ・バッティスタ・リゴン指揮 ヴィルトゥオーゾ・ブルネシス デュシカ・ビジェリク(S/アデリーナ)、ガブリエレ・ナーニ(Br/ヴァルネル)、グスターヴォ・クアレスマ・ラモス(T/エルネヴィッレ)ほか
録音：2010年7月パート・ヴルトパート（ライブ） Naxos 8660372-73 (CD2枚組)



ピエートロ・ジェネラーリ（Pietro Generali, 1773-1832）はロッシーニより19歳年上の作曲家。最初のオペラを1800年ローマで発表し、生涯に55の歌劇を作曲しました。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルでは2002年に《うりふたつの間違い》、2003年に《アデリーナ》を復活上演し、筆者も観劇しました。とりわけ《アデリーナ》はロッシーニが《結婚手形》でデビューする49日前の1810年9月15日、同じサン・モイゼ劇場で初演されたので、両者の影響関係を考える上でも興味深い作品と言えます。

舞台はチューリヒ湖畔。物語は、未婚のアデリーナがエルネヴィッレに誘惑されて捨てられ、彼の子を産んだ事実を隠して父の家に戻っていた。村の教師シモーネはアデリーナの手紙で彼女の境遇を知り同情するが、事態を察した父ヴァルネルは怒って娘を家から追い出す。シモーネはヴァルネルに赤子を見せてその心を開かせ、エルネヴィッレも子供の父親と名乗りを挙げて丸く収まる、という内容。形式的には1幕ファルスですが、喜劇的要素の無い感傷的メロドラマです。

これは2010年7月、ヴィルトバートのロッシーニ音楽祭上演のライブで世界初録音。なんの知識も先入観もなしに、とにかく聴いてください。「あれ？これロッシーニ作品では？」と驚くこと請け合いです。でも、ロッシーニのデビュー前にジェネラーリが作曲したオペラなのです。ロッシーニはモーツァルトとハイドンの影響を受けましたが、それ以上に同時代の先輩作曲家の優れた作品に学んでいます。その辺のことは2015年2月11日の例会「ロッシーニ研究の最前線」で話しましたので繰り返しません。ロッシーニの個性と真価の理解に同時代のオペラ研究は不可欠で、すでに多数の作品が復活を遂げています。

▼郵船トラベルがロッシーニ音楽祭の関連サイトを開設！▼

「日本ロッシーニ協会でペーザロ・ツアーを実施してほしい」との要望を何度も会員の皆さまからいただきましたが、協会が独自に海外ツアーを企画運営するのは無理、と断念しました。筆者が同行する郵船トラベルのロッシーニ音楽祭ツアーはそれに代わる企画として2008年から協会と無関係に始められ、ロッシーニ音楽祭ツアーを6回、ペーザロ以外も含めると7年間に14回の海外オペラ・ツアーを実施済みです。

こうした流れを受け、郵船トラベルのサイトにロッシーニ音楽祭の特別枠が設けられることになりました。旅行会社のサイトですから日本ロッシーニ協会とは無関係ですが、専門家が講師として同行するロッシーニ音楽祭ツアーは日本でこれが唯一。コンテンツを筆者が提供するので内容に協会ホームページとのダブリがありますが、これまで実施した全ツアーの行程が見られますので、個人旅行のプランを立てる際の参考にしてください。

郵船トラベルのロッシーニ音楽祭関連サイトはこちら→ http://www.ytk.co.jp/tabiyujin_music/rossini.php

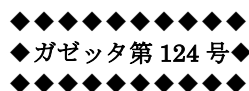
水谷彰良同行のツアー実績はこちら↓（個々のツアーをクリックすると、行程をご覧いただけます）

http://www.ytk.co.jp/tabiyujin_music/music01_04.php

今年もロッシーニ音楽祭ツアーを企画中です。ペーザロの旅、是非ご一緒しましょう！

本日はこれにて失礼いたします。

(2016年1月15日 水谷彰良)



ガゼッタ第124号をお届けします。

本号は、「1月例会の来場御礼と2月28日例会のご案内」、「NISSAY OPERA 2016 オペラ《セビリアの理髪師》（6月18・19日）前売り開始!」、「ららら♪クラシックの《セビリアの理髪師》序曲放送（1月30日）」、「新国立劇

場の新シーズン《セビリアの理髪師》の公演日とキャスト決定!」をお届けします。

なお、協会ホームページの「ガゼッタ統合版」の頁に「第111号から第115号のまとめ(23)」と「第116号から第120号のまとめ(24)」を掲載し、「オペラの作品解説」の頁に掲載済みの「《マティルデ・ディ・シャブラン》作品解説」を増補改訂版と差し替えました(1月24日アップ)。

「ガゼッタ」統合版の頁はこちら→ <http://societarossiniana.jp/lagazzetta.html>

「オペラの作品解説」の頁はこちら→ <http://societarossiniana.jp/archive.opera.html>

▼1月例会の来場御礼と2月28日例会のご案内▼

去る1月17日(日)、今年最初の例会「スペインのロッシェニ、ラモン・カルニセールの《ドン・ジョヴァンニ》」(講師:水谷彰良)を実施し、36名のご来場をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。カルニセールに関する事前知識がゼロだった方も、3時間後には生涯と作品のおおよそをご理解いただけたことと思います。例会後、「貴重な《ドン・ジョヴァンニ》で楽しかった!」とのご感想をいただきました。

例会の様様を初めて写真に撮りましたので、ご覧ください。→



次回例会は2月28日(日)、アルベルト・ゼッダ先生のロッシェニ教育をテーマに次のように実施します。

題目:巨匠アルベルト・ゼッダのロッシェニ教育(最近観たロッシェニ・オペラ上演についての報告付き)

講師:井内美香

日時:2016年2月28日(日)午後1時30分開始、午後4時半頃終了予定

会場:北沢タウンホール3Fミーティングルーム(下北沢駅より徒歩4分)

地図は <http://kitazawatownhall.jp/map.html>

会員とご家族は無料。その他の方は当日1,000円を頂戴します。

内容:

2008年ロッシェニ・オペラ・フェスティバル来日公演のコーディネーターと通訳を務め、昨年の大阪フェスティバルホール《ランスへの旅》公演にも関わった講師による、近くから見たアルベルト・ゼッダ先生。世界各地のマスター・クラスなどで教育活動にも熱心なゼッダ先生が、ロッシェニの何をどう教えているか的一端をお伝えしたいと思います。大阪の《ランスへの旅》は、主催者のご許可を得て、リハーサル中の風景や本番の映像も少しご紹介する予定です(資料映像ですので字幕はありません)。加えてベルギーのゲントで観たゼッダ先生指揮の《アルミダ》など、最近観たロッシェニ公演についても報告させていただきます。 [講師・記]

なお、同日夜に深川江戸資料館小劇場にてセレンディピティ・オペラの演奏会形式《エルミオーネ》公演があることは当メルマガ第119号(昨年12月5日配信)で告知済みです。例会の会場(下北沢)から深川江戸資料館小劇場のある清澄白河には約40分とあって、夜7時開始の《エルミオーネ》に充分間に合います。この日はロッシェニの催しをダブルでお楽しみください。ちなみに下北沢駅午後5:02→代々木上原→大手町→清澄白河5:36着。7時の本番前に夕食をとれます。

◎ロッシェニ作曲《エルミオーネ》(全2幕、原語上演、字幕付き。ピアノ伴奏演奏会形式)

2016年2月28日(日)18時45分会場 19時開演

深川江戸資料館小劇場 自由席2,000円

出演 ピッコ:谷川佳幸、エルミオーネ:西尾京子、オレステ:岡坂弘毅、アンドローマカ:吉村恵ほか。

インフォメーションはこちら→ <https://www.facebook.com/events/910563945659252/>

▼NISSAY OPERA 2016 オペラ《セビリアの理髪師》(6月18・19日) 前売り開始! ▼

既にご存知の方も多いと思いますが、日生劇場が6月18日と19日に《セビーリヤの理髪師》を上演します。チケット先行予約は1月18日、一般予約の開始は2月1日からです(下記参照)。

◎NISSAY OPERA 2016 オペラ《セビリアの理髪師》

公演日時 2016年6月18日(土)、19日(日)14時開演

会場 日生劇場

指揮:園田隆一郎、演出:栗國淳、管弦楽:新日本フィルハーモニー交響楽団

【キャスト】

アルマヴィーヴァ伯爵:中井亮一(18日) / 山本康寛(19日)

ロジーナ:富岡明子(18日) / 中島郁子(19日)



バルトロ：増原英也（18日）／久保田真澄（19日）
フィガロ：青山貴（18日）／上江隼人（19日）
ドン・バジリオ：伊藤貴之（18日）／デニス・ビシュニャ（19日）
ベルタ：山口佳子（18日）／藤谷佳奈枝（19日）
フィオレッコ：清水勇磨（両日）

【チケット】

S席／9,000円、A席／7,000円、B席／5,000円、学生席／3,000円、食事付S席／15,000円

先行開始 2016年1月18日(月)10:00~

一般開始 2016年2月1日(月)10:00~

注：1月18日開始の先行予約は日生劇場「Webチケット会員」への登録が必要です。

公演の詳細はこちら→ http://www.nissaytheatre.or.jp/schedule/il-barbiere-di-siviglia_nissay-opera-2016/

▼ららら♪クラシックの《セビリアの理髪師》序曲放送（1月30日）▼

1月30日（土）夜9時半からNHKのEテレ「ららら♪クラシック」で「《セビリアの理髪師》序曲」の回が放送されます（再放送は2月4日の午前10:25~）。

筆者のコメントもちょっと映る予定ですが、ディレクターのコンセプトに沿って「音楽の名料理人」とした部分が使われるかも…それはそれで仕方ないことですね…ゲストはソムリエの田崎真也さんですから。

ららら♪クラシックの「《セビリアの理髪師》序曲」放送予定はこちら→ <http://www.nhk.or.jp/lalala/>

▼新国立劇場の新シーズン《セビリアの理髪師》の公演日とキャスト決定！▼

去る1月15日、新国立劇場の2016/2017シーズンのオペラ演目が正式発表されました。《ワルキューレ》《ラ・ボエーム》《セビリアの理髪師》《カルメン》《蝶々夫人》《ルチア》《オテロ》《フィガロの結婚》《ジークフリート》の9作で、名作オペラ揃い踏みみたいなラインナップです。以下、《セビリアの理髪師》公演情報を転記します。

公演日：11月27日（日）14:00、12月1日（木）19:00、4日（日）14:00、7日（水）14:00、10日（土）14:00

指揮：フランチェスコ・アンジェリコ 東京フィルハーモニー交響楽団、新国立劇場合唱団

演出：ヨーゼフ・E.ケップリンガー

配役は、ロジーナ：レナ・ベルキナ、アルマヴィーヴァ伯爵：マキシム・ミロノフ、バルトロ：ルチアーノ・ディ・パスクアーレ、フィガロ：ダリボール・イエニス、ドン・バジリオ：妻屋秀和、ベルタ：加納悦子、フィオレッコ：梶 貴志

ロジーナのレナ・ベルキナは2014年ROF《パルミラのアウレリアーノ》アルサーチェ、2015年《泥棒かささぎ》ピッポを歌ったウクライナ人。小粒ではありますが、ROF仕込みのテクニックに期待できます。アルマヴィーヴァはご存知マキシム・ミロノフ。フィガロ役のダリボール・イエニスは2012年の新国立劇場でも歌いました。E.ケップリンガーの演出は2005年から何度も観たのでマンネリ気味ですが、他に良い演出があるかと言われると思ひ浮かびません。指揮者フランチェスコ・アンジェリコは1977年シチーリアのカルタジローネ生まれ。2001年にモデナの音楽院をチェロで卒業し、2003年からルガーノ音楽大学で指揮を学んで2009年に本格デビューした新人です。

新国立劇場《セビリアの理髪師》の詳細はこちら ↓

http://www.nntt.jac.go.jp/opera/performance/151224_007956.html

付記：

このメルマガでは公演に即して題名を転記するため今回は日生劇場・NHK・新国立劇場共に《セビリアの理髪師》ですが、「ガゼッタ」第15号に書きましたように、1990年頃には地名に関して原語の現地発音をカタカナに置き換えるのが合理的との考え方が識者の間に定着し、スペイン語の地名「Sevilla」も現地発音「セビージャ」もしくは『西和中辞典』（小学館）や『コンサイス外国地名事典 改訂版』（三省堂）の「セビーリャ」が標準表記と理解され、岩波文庫のポーマルシェ原作も2008年の鈴木康司訳で『セビーリャの理髪師』とされ、筆者も20年前から自分の文章に《セビーリャの理髪師》を使っています。

ちなみに在スペイン日本国大使館サイトの都市情報も、タイトルを「セビージャ」とした上で本文表記は「セビーリャ」で統一しています。↓

http://www.es.emb-japan.go.jp/japones/spaincities/spain_cities_sevilla.html

でも日本の外務省の一般的文書は「セビリア万博」ですから、広く普及した「セビリア」とスペイン&スペイン語研究者と文献の「セビージャ」「セビーリャ」は両立し続けるでしょう。とはいえ後者が前者に変わることは絶対にありません。読者の皆さまにはご不便をおかけしますが、日本ロッシェニ協会ホームページ、メールマガジン、紀要『ロッシェニアーナ』では従来どおり地名・作品名に「セビーリャ」を使わせていただきます。

本日はこれにて失礼いたします。

(2016年1月25日 水谷彰良)

▼2016年ヴィルトバートのロッシニー音楽祭の会期と演目発表!▼

僻地とあってなかなか食指の動かないヴィルトバートのロッシニー音楽祭。第28回の今年は7月14日～24日の会期で開催されます(同月8～10日にプレ・イベントあり)。主演目は《デメトリオとポリービオ》、《シジスモンド》、そしてベルカント・アカデミーのメンバーによるセミステージ形式《オリイ伯爵》の三つです。

これとは別に、ジュゼッペ・バルドゥッチ(Giuseppe Balducci,1796-1845)作曲の歌劇《マルシコの伯爵(Il conte di Marsico)》(ナポリ,1839年)…6人の若い女性歌手、合唱、3台のピアノ伴奏のユニークな室内オペラとのこと…、ベッリーニ《ピアンカとジェルナンド》(ナポリ,1826年)も蘇演されます。相変わらずマニアックな取り組みですね。筆者は2年後に行こうと思っているのですが…

個々の公演日は未発表。現時点のインフォメーションはこちらをご覧ください↓

<http://www.rossini-in-wildbad.de/rossini/> (ドイツ語)

<http://www.rossini-in-wildbad.com/rossini/programme-overview/> (英語)

▼2月28日の例会後の深川江戸資料館小劇場《エルミオーネ》に関する追記▼

「ガゼッタ」第124号(1月25日配信)の2月18日例会案内に付随し、同日夜の深川江戸資料館小劇場《エルミオーネ》に関して会場がある「清澄白河で本番前に夕食をとれます」と書きましたところ、会員の仲峰さんから、「清澄白河、江戸資料館周辺にめぼしいレストランは皆無です。日曜日と言うこともあり、食事処はかなり厳しいです。ラーメン店、小さな居酒屋ぐらいいしかありません」とご教示いただきました…すみません。筆者は清澄白河を知らずに書いていました。

幸いなことに、仲峰さんが例会後《エルミオーネ》を観に行くので、他にも「行かれる方がいらっしゃいましたら、一緒にいたします。紀伊国屋文左衛門のお墓や間宮林蔵のお墓など江戸時代の名所や相撲部屋、TVで有名なカフェやイタリアン・ジェラートの店(いずれも立ち飲み、立ち食いです)、簡単な食事処などをご案内できます」とのことです。例会の休憩時間に、あらためてお声掛けさせていただきます。

なお、同日深夜NHK-BSプレミアムシアターで昨年ROFの《新聞》が放送されます。これについては録画し忘れぬよう直前の25日配信「ガゼッタ」で再度お知らせします。

本日はこれにて失礼いたします。

(2016年1月25日 水谷彰良)